

連携先世界遺産：賀茂別雷神社（上賀茂神社）

「上賀茂神社の魅力を学生の視点で発信する」

7月24日(日)「賀茂の水まつり」の活性化

■受講生

井上 陽介（京都産業大学・文化学部・4年）、猪尾 颯志（京都産業大学・現代社会学部・1年）、
 オウ ジン（京都産業大学・文化学部・1年）、小永 新（京都産業大学・外国語学部・1年）、
 加藤 竜一（京都先端科学大学・人文学部・4年）、中村 葉汰（京都産業大学・法学部・3年）、
 野村 梨愛留（京都外国語大学・外国語学部・3年）、樋口 裕馬（京都産業大学・法学部・3年）、
 福田 智陽（京都産業大学・外国語学部・1年）、藤岡 沙也加（龍谷大学・政策学部、2年）

■担当教員

若松正志（京都産業大学・文化学部・教授）、吉野秋二（京都産業大学・文化学部・教授）

活動目的・概要

上賀茂神社（正式名称：賀茂別雷神社）から提示された課題「上賀茂神社の魅力を学生の視点で発信する」に答えることが目標です。具体的には、7月の第4日曜日に開催される、近年新たに始まった「賀茂の水まつり」の活性化を目指し、「水」をキーワードに、企画（各種イベント、広報など）を考え、神社と相談・調整のうえ、実行します。

今年度も、いろいろな方の協力を得て、定番の大学のクラブ・サークルによるパフォーマンス、お茶席に加え、水鉄砲・水笛の工作、水運び競っ子を新企画として実施しました。また、休憩所の設置や広報（外国人向けを含む）にも力を入れました。そして、この課題を通して、主体性・考える力・チームで働く力などを、実践的に身に付けることができましたと思います。



工作を楽しむ子供たち



神社の芝生広場で行われた
水運び競っ子



バトントワリング・サークル
Floraisonのパフォーマンス

◆主な活動

- | | |
|---|---|
| 4.23 ガイダンス・講義(キャンパスプラザ'京都)、賀茂別雷神社(以下、神社)訪問、課題の説明・意見交換(神社) | 7.9 ミーティング(水まつりの企画提案・検討4)(神社) |
| 5.5 神社行事(競馬)の観覧(2名)(神社) | 7.23 水まつり前日準備(神社ほか) |
| 5.22 インタビュートレーニング、ミーティング(水まつりの企画提案)(キャンパスプラザ'京都) | 7.24 水まつり当日(神社) |
| 5.28 ミーティング(水まつりの企画提案・検討1)(同) | 7.25 水まつりあとかたづけ(神社ほか) |
| 6.11 ミーティング(水まつりの企画提案・検討2)(神社) | 9.24 ミーティング(水まつりの成果と課題)(キャンパスプラザ'京都) |
| 6.25 ミーティング(水まつりの企画提案・検討3)(神社) | 10.16 プレゼンテーション力養成講座、ミーティング(成果報告会に向けて)(キャンパスプラザ'京都) |
| 6.29 お茶席打ち合わせ(2名)(佐々木先生宅) | 12.3 ミーティング(成果発表会の準備)(Zoom) |
| | 12.11 成果発表会(キャンパスプラザ'京都) |

活動の成果

<工作>

私たちは「水まつり」ということで、水に因んだ子供向けの出し物を考え、ペットボトル水鉄砲と水笛の工作を企画しました。

水鉄砲作りには60人ほどの親子連れに来ていただきました。当初設定していたよりも低い年齢の子供たちにも楽しんでもらうことができ、とても嬉しかったです。作り方のボードや呼び込みのポスターを自分たちで作り、工作の過程や呼び込みを効率良くすることができました。ポスターだけでなく工作の道具を入れる小さな箱も新聞紙で手作りし管理したことで、物を散らかさないような工夫もできました。

水笛の出し物を準備する段階で最も気をつけたのは、スムーズな誘導の仕方とコストを抑えることです。水鉄砲同様に自分でイメージ画像と説明の入った資料を作成したり、丁寧な声かけを心がけたりして、来てくださった方がスムーズに作業できるようにしました。また、材料のフィルムケースを写真屋さんにご依頼などして節約&資源の有効活用に努めました。当日は来てくださった方の笑顔を見ることができ、し、「家でも作ってみようと思います」という言葉もいただき、とても嬉しかったです。

<水運び競っ子>

神社境内の芝生広場にて、上賀茂神社の伝統行事の競馬（くらべうま）を模した、競っ子（くらべっこ）と題した水運び競争をしました。水まつりということもあり、水を使って親子に楽しんでもらいたいという思いから発案しました。親子で水を桶から桶へ運んでもらい、桶の底に出てくる動物の絵を当てたチームが勝ちというルールにしました。水まつり当日は大変暑い中、約40名の親子連れのお客さんが遊びに来てくれました。親御さんが子供さんの楽しそうな写真を撮っていたのが本当に嬉しかったです。また、まつり当日は暑いことを予想していたので、景品としてジュースをプレゼント。熱中症対策としました。ジュースも大変好評で、たくさんの方に喜んでいただけました。

<パフォーマンス>

神社の参道の脇（外幣殿（馬場殿）前）にステージを設け、京都産業大学の落語長屋、バトントワリングのサークルFloraison（前年度のこの授業の受講生が中心）に、出演・パフォーマンスいただきました。

<お茶席>

今年も佐々宗聖先生（表千家）のご指導のもと、お茶席を設けました。1席500円で、朝10時の開始早々から、神社近辺の方だけでなく、関東地方や全国から参拝に訪れた方にもお立ち寄りいただき、13時30分には予定の100席分がほぼ完売状態になりました。神社境内での広報（ポスター、ビラ）にも力を入れました。沢山の方の協力のもと、大成功をおさめました。なお、茶碗の洗浄・消毒、受付時の記名や検温など、コロナ対策にも努めました。

<休憩所>

昨年、水まつりの際に熱中症患者が出たことを聞き、無料で水を飲んだり日陰で涼んだりできる場所が必要ではないかと考え設置しました。コロナ禍の中での開催だったこともあり、使い捨ての紙コップを使用する、休憩所利用中も飲食以外ではマスクを着用してもらうという方向で進めました。

最初はテントの下に長椅子を置き、間を空けて座って利用してもらうことを考えていましたが、ブルーシートの方が設置&利用しやすいこともあり、そちらに変更しました。

利用者は家族連れが多かったです。また、パフォーマンスのステージの前に設置していたこともあり、日陰で涼みながら演目を見る方もいました。

また、工作班と協力し、ペットボトルを水鉄砲作りで使用するなど、ゴミの削減にも努めました。

<広報>

今回は、これまでよりも外国人向けのキャンペーンを増やしました。受講生に中国人学生がいるので、京都在住の中国人に向けて特別な宣伝をしました。中国人の間で流行しているアプリ「tiktok」や「小紅書（RED）」、留学生同士の交流グループでこのイベントを宣伝しました。水まつり当日、多くの中国人が上賀茂神社を訪れ、お茶やイベントを体験し、日本の文化を感じてもらうことができました。

活動を振り返って

工作の完成品にシールを貼ってもらったりマジックで絵を描いてもらったりしたのですが、途中で準備していたシールが不足してしまい、急な出費が出てしまいました。

水鉄砲の反省点は、バケツの数が少なかったことです。複数個準備していればもっとスムーズに水鉄砲を楽しめたのではないかと思います。また、人手が不足に、来てくださった方を待たせてしまったこともありました。

水笛の反省点として大きなものは、工作の難易度が高かったことです。企画を考える段階で自分でやってみて成功したので水笛にしたのですが、他の人にもやってみてもらい意見をもらったほうが良かったと思います。

水運び競っ子を開催するにあたっては、自分たちで実際に本番と同じようにやってみて、試行錯誤してルールを作りました。その結果、小さいお子さんから大人の方まで楽しんでいただくことができました。親子の思い出づくりのお手伝いをするのができたと思います。このイベントを開催できて本当に良かったです。

パフォーマンスについては、夏ということもあったが、神社側の協力もありスタッフ・出演者の健康面でのトラブルはなかった。また、子供向けのパフォーマンスの奉納もあり、世代を問わず盛り上げることができた点が一番の成果だと思う。しかし、初動が遅れたこともあり、参加団体が限られたことや、打ち合わせが円滑に進まなかった点に改善の余地があったと思う。

お茶席は、全体的には大成功でした。浴衣を着ての接客、お茶を点てたり、お茶を運んだりなど、お茶席を開催することで、沢山のひととの触れ合いについても学ぶことができました。

休憩所の反省点として、当日は朝から晴れており気温が高かったため、多くの人が利用するだろうと考えていました。しかし、テントになんの看板も出していなかったためか、午前中の利用者はほとんどいませんでした。そこで急遽、画用紙に休憩所や水が無料で飲めることなどを書いて貼り出し、木陰で涼んでいる参拝者の方々に直接声かけして呼び込みなどを行いました。

担当教員からのコメント

今年度は、学生はもちろん、神社側も担当者が代わり、一から企画を考えようという形でスタートしました。私も、吉野先生の体調不良で急遽復帰。6月後半からは2人体制で担当しました。

学生からの提案はいろいろありましたが、工作（水鉄砲・水笛）、水運び競っ子、休憩所、これに定番の、大学のクラブ・サークルなどを招いたパフォーマンス、お茶席を加え、さらに広報も工夫し、準備しました。

今回もお茶席では佐々木先生にお世話になりました。OB・OGの協力は例年ほど多くはありませんでしたが、パフォーマンスのバトントワリングは、昨年の受講生が中心で、出演回数などでも尽力・奮闘いただきました。また、京都産業大学のボランティア・サークルNONT Sには、今回も協力いただき、絵馬神輿の展示・子供縁日（ヨーヨーつりなど）で盛り上げていただきました。さらに、京都産業大学、上賀茂神社、大学コンソーシアム京都には、備品の借用、施設の利用、写真撮影などでお世話になりました。感謝申し上げます。

最後に、教員がどこまでやるか、今年も悩みました。学生たちが、自由に、能動的に動けるよう、いろいろ試みましたが、それぞれの事情もあり、個人・班としては何とか機能したと思いますが、チーム全体の活動・マネジメントはいまいちだったと思います。大学も専門（所属学部）も違うこの科目で、自分のできることに率先して取り組み、可能な範囲でフォローする、こういうことの重要性を感じ、行動できるようになってください。将来的にこの経験を生かしてくれればと思います。

活動資料



4/24 賀茂別雷神社の説明と課題を聞く受講生たち



6/25 打ち合わせ



6/29 お茶会打ち合わせ



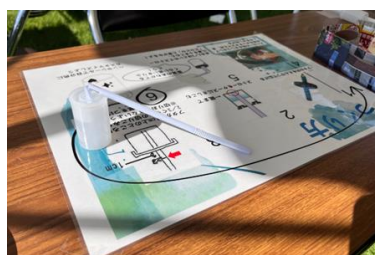
7/23 水まつり前日：テント設営・お茶席準備



水運び競っ子の受付・説明



工作に取り組む子供たち



工作（水鉄砲）の説明ボード



神社の芝生広場で行われた水運び競っ子



落語長屋のパフォーマンス



お茶席の受付（記名・検温）



お茶席の受付



お茶席に協力いただいた
佐々木先生ご夫妻と



休憩所



水まつりの各テント（休憩所、子供縁日、工作、受付）



神社の二の鳥居の中（細殿前）



水まつりと短冊（ならの小川）



お茶席の
お茶と和菓子



お茶席案内の
手作り風看板